

# 議 事 録

## ハイリスク母児管理班 57年度幹事会

日 時 昭和57年4月10日  
場 所 私学会館  
出 席 者 坂元正一  
前田一雄  
武田佳彦  
神保利春  
竹村喬  
奥山和男  
桑原慶紀  
室岡一  
荒木勤  
高橋亘  
越野立夫

- 議 題
1. 室岡主任研究者より挨拶と本年度の大筋の計画について説明
  2. 本年度の事業計画とメンバーの変更について各分科会長より説明
  3. 昨年度より引き続いての研究状況についての説明
  4. 事務連絡

## 第 1 回 班 会 議 議 事 録

と き 昭和 5 7 年 8 月 1 9 日 ( 木 ) 午後 1 時 ~ 2 時  
と ころ 鹿児島市城山観光ホテル  
出 席 者 竹村, 森, 品川 ( 代 ), 室岡 ( 代 ),  
欠席 真木, 我妻

### 議 題

#### 1) 経過報告

① 前年度報告書について

② 本年度の動き

4 月 5 日 「昭. 5 7 年度研究計画概要」を室岡班長宛

4 月 1 0 日 幹事会 ( 東京私学会館 )

4 月 1 0 日 幹事会の内容 ( 班長よりの要望, 連絡事項 )

a. 本年度は最終年に当るので, 3 年間の成果をまとめてほしい。

b. まとめたものが, そのまま治療指針, 指導指針になるように配慮されたい。

c. どうしてもこれからしなければならぬことは, 結論的に述べてほしい。

d. 報告書を出版することについては特別に予算はない。厚生省へ提出した後, 刊行するよう, 刊行には慎重な態度で望んでほしい。

e. 本年度配分額: 未定なるも当分科会は恐らく前年度通りとなる模様。

#### 2) 本年度の計画

竹村より研究計画概要 ( S. 5 7. 4. 5 提出 ) を説明

これに対し, 次のような発言がありお互い意見を交換, 全員これを了承した。

##### 主な発言要旨

① 時代の推移により妊産婦死亡の原因も変化して来たので, これに対応する必要がある。

② 最近注目される原因として, 羊水栓塞, 検診のおちこぼれ, 十代の妊娠など, 社会医学的要因があげられる。

③ これからの対応

妊産婦死亡を予防するために, これからの対策として次の諸点があげられる。

i) 出血の防止, 処置

ii) 妊娠中毒症の予防

iii) 妊娠時とともに妊娠前の管理・啓蒙

妊娠してからでは遅すぎることが少なくない。妊娠前, すなわち新婚期, 結婚前, 思春期における健康診断 ( とくに内科疾患 ) の徹底と疾病の治療, 思春期手帳 ( 仮称 ) の発行など積極的に妊娠前の管理, 啓蒙につとめる。

#### 3) ガイドライン作成について

① ガイドブック作成のための特別の予算がないことと, 刊行に慎重な態度をとるよう要望されたことから, 当初の計画を大巾に縮小するが, これをまとめて妊産婦死亡予防の指針として報告する。

② 今後の方針

i) 原案 ( 別紙 — 当日配布 ) の 1 ~ 5 はカットし, 6 妊産婦死亡の予防対策を主力として作成する。

ii) テーマと執筆割当

○ハイリスク妊娠の管理 (妊娠中毒症の予防, 剖検例の分析を含めて)	品川	20~25枚
○産科出血, 産科ショックの対策	真木	20枚
○産科救急体制	竹村	15枚
○周産期医療の組織化		
離島	森	10枚
僻地	品川	〃
都会	竹村	〃

iii) 原稿〆切 12月末日(厳守)

(12月始めに催促する予定)

4) 次回班会議の開催

12月始め頃, 東京ないしは大阪で開催する予定。なるべく土・日以外の方がよいとの意見が多いのでなるべく週日にする。

昭和57年度第1回厚生省班研究  
議 事 録

日 時 昭和57年9月23日  
場 所 私 学 会 館  
出 席 者 堀内 勤 荒木 勤 金岡 毅 須川 豊 外西寿彦 鈴木重統  
小林英郎 堤 紀夫 竹内 徹 浜田 宏 橋爪 章 武田佳彦

- 議 題
1. 本年度研究予算, 事務手続
  2. 死因統計の解析
  3. 今後の方針(まとめの方針)

武田班

- 1) 死亡原因としての晩期死亡の新生児期以降をまとめる  
(対象施設)  
名市大, 高知医大, 鹿児島, 聖マリアンナ, 大阪府立母子センター
- 2) 死亡原因の分類を再考する。  
原因と結果が混在している。

神母班

- 1) 死因からの対策立案
- 2) 答申は施設の規模によって分ける  
PICU NICU 1般2次 1次救急  
項目

胎盤早期剝離	荒木
前期破水	竹内, 神保
前置胎盤	神保
骨盤位の取扱い基準	浜田, 神保
糖尿病	(次回繰越しか)?
凝固機能と在胎週数	鈴木
蘇生の背景	金岡

須川班

周産期におけるリスク因子

武田班個別

周産期センターの診療実績 (設立前後の死亡数, 死亡剖検所見)	外西
IUGRの臓器別	堤
新生児死亡と治療との相関	堀内

**厚生省前田班「分娩時胎児管理に関する研究」  
議 事 録**

日 時 昭和57年9月23日(木) 13:30~17:30  
場 所 私学会館 5階 502号室(東京都千代田区)  
出 席 者 新井正夫, 西島正博, 寺尾俊彦, 中野仁雄, 小柳孝司, 諸橋 侃,  
荒木 勤, 関修一郎, 前田一雄, 辰村正人, 中嶋一彦,

1. 事務連絡

1) 厚生省室岡班事務連絡(荒木)

総会開催日 昭和58年2月26日

当日3年間の研究報告書提出

代表提出者 前田(各研究者はこれに間に合うよう早めに3年間の報告書を前田まで送付  
すること)

2) 厚生省前田班事務連絡(前田, 辰村)

同 上

2. 文献調査

文献内容調査には極めて多大な労力を費し, 完成までに約3,960人日であった。文献発行年度に対する項目別度数分布, 国別分布を作成し報告予定, 胎児監視の必要性をさらに一般関係者に広報する必要がある。

3. 総説作成

文献調査記録のファイルは今後も使用する可能性があり, MTにsaveするなどの処置をとる。

4. 研究報告

- |                                  |         |
|----------------------------------|---------|
| 1) 周産期の心拍数連続モニタリングによるハイリスク児の早期発見 | 寺 尾 俊 彦 |
| 2) 胎児情報のフォーマティング                 | 小 柳 孝 司 |
|                                  | 中 野 仁 雄 |
| 3) 新生児呼気ガス, 超音波断面積値, 胎児脳波        | 諸 橋 侃   |
| 4) 妊娠分娩時の胎児管理                    | 西 島 正 博 |
|                                  | 新 井 正 夫 |
| 5) 自動診断胎児心拍数パラメータの利用             | 前 田 一 雄 |

## 議 事 録

### 昭和57年度厚生省、ハイリスク母児管理班 胎児監視システムのあり方、打合せ会

日 時 昭和57年10月12日(火) Pm 5:30~8:30  
場 所 私学会館

#### 議 事 録

1. 室岡一, 班長より挨拶  
本年度の予定と計画について, 特にまとめ方についての説明
2. 室岡, 吉田, 矢内原, 桑原, 森山の順で本年度の個別研究の方針について報告した。
3. 個別研究の外に, ハイリスク妊娠管理のためのフローチャートの作成を行う。

日 大 吉田 (RH不適合妊娠)

日医大 室岡 (過期妊娠, 中毒症)

東 大 桑原 (DM合併妊娠, 中毒症)

奈 良 森山 (IUGR, 中毒症)

昭 和 矢内原 (E<sub>3</sub>低下例, SFD中毒症)

以上の項目について次回にはチャートの原案を持ちよることとする。

#### 4. 事務連絡

##### 出席者

矢 内 原		巧
吉 田	孝	雄
桑 原	慶	紀
森 山	郁	子
室 岡		一
荒 木		勤
高 橋		亘
宮 内	裕	光
越 野	立	夫

厚生省ハイリスク母児管理班  
分担回：「IUGRの診断基準と実態調査」

開催日 昭和57年12月22日(水) 午後1時40分～4時30分  
場所 好文クラブ(大阪市)  
出席者 倉智敬一(大阪大学)  
久保惣平(国立西埼玉中央病院)  
仁志田博司(北里大学)  
浅田昌宏(大阪大学)  
青木嶺夫(大阪大学)

議題

[1] 57年度の研究成果に関する検討(3施設より報告)。

青木嶺夫：「IUGRの診断基準について」

胎児計測値の偏差の推移が負に向う状態をIUGRと定義することにより、胎児適応破綻の予測が可能であった。

仁志田博司：「Light-for-date infant の診断基準について」

新生児罹病率の解析から、mean-1.5SDを診断基準とすることが妥当であった。

久保惣平：「超音波胎児腹部前後径測定による出産児体重の推定」

単一パラメータを用いて、高精度の推定が可能であり、IUGRのスクリーニングとして有用である。

[2] 発育異常に関する用語について。

新産児の体格計測値をもって子宮内胎児発育の動的評価を行うことは不可能であり、研究・臨床における混乱を避けるために、新産児の評価に用いる基準値・基準曲線は出生時体格基準・基準曲線図と呼称する。

胎児の評価は、その計測系における基準値・基準曲線をもって行うものとする。

産科における「妊娠週数」と、小児科において汎用されてきた「在胎週数」とは同義であり、以後も両者をそのまま使用する。

## 議 事 録

### 57年度厚生省ハイリスク母児管理班 胎児監視システムのあり方、打合せ会(第2回)

日 時	昭和58年1月17日
場 所	私 学 会 館
出 席 者	室 岡 一 吉 田 孝 雄 桑 原 慶 紀 森 山 郁 子 荒 木 勤 矢内原 巧 高 橋 巨 村 田 越 野 立 夫

#### 議 事

1. ハイリスク妊娠管理のチャート(神戸方式)が示され、各研究者の成績から、別個のチャート作成の方針について話し合われた。
2. 本年度は3年目で、まとめの年なので、ハイリスク妊娠における胎児監視の指針が出来るようにまとめること。
3. 事 務 連 絡



昭和 5 7 年度第 2 回厚生省班研究  
議 事 録

日 時 昭和 5 8 年 1 月 2 2 日  
場 所 東京ステーションホテル  
出 席 者 浜田 宏, 金岡 毅, 鈴木重統, 荒木 勤, 堤 紀夫, 池ノ上克,  
小林英郎, 福富和夫, 須川 豊, 神保利春, 堀内 勁, 関修一郎,  
小川雄之亮, 竹内 徹, 武田佳彦

議 事

1. 事務報告

荒木助教授より研究報告書, 会計報告についての説明があった。

2. 関課長補佐あいさつ

3. 研究報告

分担研究者を座長として, 研究報告が行われた。

神保班

血液凝固動態から見た勧告案 鈴木

Vit K の予防的投与の限界 ( 3 0 週未満)

前期破水の取扱い 竹内

maternal transport の問題点

骨盤位の取扱い 浜田

低出生体重児は帝切が予後良好

前置胎盤 神保

診断の時期 ( 2 5 W 以降)

須川班

周産期死亡判別の試み 小林

異常例の身体精神発育 福富

母子調査のまとめと母子保健システムの提言 須川

武田班

死亡例の臓器発育 堤

肺, 肝, 脾, 副腎, 胸腺は低重量に比し心は高重量

周産期センターにおける死亡例 池之上

呼吸障害を主因とする死亡例の附加要因 小川

N I C U の死亡例分析 ( 後期死亡) 堀内

後期新生児死亡は長期の intensive care

症例に多い

後期新生児死亡, 乳児死亡 ( N I C U ) の検討 武田

後期新生児死亡の特徴 奇形, 呼吸障害

乳児死亡 感染症

以上の結果を報告書の形式にまとめて 2 月 2 0 日迄に各分担研究者まで送付することに決定

厚生省研究補助金「分娩時胎児管理に関する研究」会議  
議 事 録

日 時 昭和58年1月29日午後1時30分から6時30分まで  
場 所 東京都千代田区丸の内1丁目  
東京ステーションホテル  
出 席 者 尾崎 明, 関修一郎, 中野仁雄, 小柳孝司, 諸橋 侃, 寺尾俊彦  
新井正夫, 西島正博, 前田一雄, 辰村正人, 中畷一彦

議 事 録

1. 厚生省母子衛生課, 尾崎 明課長挨拶
2. 事務連絡(辰村)
  - (1) 研究費の支出は1月末日までとする。
  - (2) 研究班総会(2月26日)で本研究のまとめを報告する予定。
  - (3) 研究報告書, 会計報告書を2月15日までに前田宛送付する事。
3. 胎児管理に関する文献調査のまとめの報告(前田, 資料配布)  
前田が案文作成し, 各班員に郵送し原稿とする予定。
4. 研究報告
  - (1) 胎児脳波について, 呼気ガス測定について(諸橋)
  - (2) 胎児情報の大容量ファイルの作成およびその応用について(小柳)
  - (3) ハイリスク児の分娩管理, 殊に出生前後の心拍数解析(寺尾)
  - (4) 分娩時麻酔と分娩監視による児および分娩予後への影響(西島)
  - (5) 胎児仮死自動診断について(辰村)
5. 研究全体のまとめ(概略)
  - (1) 分娩監視とそれによる胎児管理  
文献調査でその重要性が最近特に注目されている。分娩監視による帝切増加はない。アプ  
ガースコアは改善された。分娩監視の自動化, 容易化が進行している。
  - (2) 分娩前に予測不可能な異常の検出と取扱いに注意する。
  - (3) 麻酔分娩は注意して行えば問題ない。
  - (4) 分娩中から新生児期にかけての連続心拍数記録の重要性(予後との相関)。
  - (5) 周産期データベース構築とその利用。

昭和57年度ハイリスク母児管理班  
極小未熟児の発生予防と管理に関する研究  
分科会議事録

分科会長 坂元正一

日	時	昭和58年2月1日		
場	所	学士会館本郷分館		
出	席	千村哲朗	山形大	
		井上公俊	"	
		望月真人	神戸大	
		益子和田久	"	
		相良裕輔	高知医大	
		荒木勤	日本医大	
		工藤尚文	岡山大	
		岸本廉夫	"	
		赤松洋	日赤医療センター	
		内藤達男	国立小児病院	
		青木嶺夫	大阪大	
		仁志田博司	北里大	
		佐藤章	東北大	
		山口祐	"	
		奥山和男	昭和大	
		鈴木鹿隆	"	
		久保惣平	国立西埼玉中央病院	
		佐藤和雄	東大	
		桑原慶紀	"	
		岡井崇	"	
		北川浩明	"	

議 事

1. 研究発表

- 1) IUGRの診断基準と実態調査  
倉智，久保，仁志田先生
- 2) 胎児の成熟度の診断とRDS発生防止  
坂元，工藤，相良，佐藤（章），望月先生
- 3) 早期陣痛発生防止に関する研究  
千村，佐藤（和），内藤先生
- 4) 極小未熟児の哺育指針  
奥山，赤松先生

2. 事務連絡

以 上

## 第 2 回 班 会 議 議 事 録

と き 昭和 5 8 年 2 月 7 日 ( 月 )  
正 后 ～ 午 後 3 時  
と こ ろ 大阪府立母子医療センター  
出 席 者 品川, 室岡 ( 代 ), 竹村  
( 欠 席 者, 真木, 森, 我妻 )

### 議 題

- 1) 「妊産婦死亡の予防の手引」(ガイドライン)編集について  
原稿が集まり, 予定通り報告書として作成することに決定
- 2) 本年度の研究, 経過報告書について

厚生省ハイリスク母児管理班  
分娩周辺における児の安全管理に関する研究分科会  
議 事 録

日 時 昭和58年2月14日 Pm 3:00 ~ Pm 7:00  
場 所 私 学 会 館

- I 胎児監視システムのあり方
  - 室岡 一 森山郁子 吉田孝雄 矢内原 巧 桑原慶紀
- II 分娩管理の胎児予後改善効果確立に関する研究および最新の分娩管理技術に関する研究
  - 前田一雄 諸橋 侃 寺尾俊彦 新井正夫 中野仁雄
- III 児側からみた産科施設改善のための問題点 —分娩室内管理の正しいあり方—
  - 前川喜平 香月義美 柳沼 恣 木谷信行
- IV 厚生省母子衛生課
  - 関修一郎
- V 事務連絡

出席者

慈 恵 医 大	前 川 喜 平
”	瀬 川 孝 昭
飯 野 病 院	香 月 義 美
鳥 取 大 学	前 田 一 雄
奈 良 医 大	森 山 山 郁 子
慶 応 大	諸 橋 侃
浜 松 医 大	寺 尾 俊 彦
東 京 大	桑 原 慶 紀
昭 和 大	矢 内 原 巧
北 里 大	新 井 正 夫
”	西 島 正 博
九 州 大	中 野 仁 雄
富 山 医 薬 大	柳 沼 恣
日 本 大	吉 田 孝 雄
慈 恵 医 大	川 崎 千 里
厚 生 省	関 修 一 郎
日 本 医 大	室 岡 一
”	馬 淵 是 純
”	高 橋 亘
”	力 武 義 之
”	黒 田 俊 孝
”	越 野 立 夫

ハイリスク母児管理班  
「NICUの運用管理に関する研究」  
議 事 録

日 時 昭和58年2月21日  
場 所 ホテル国際観光(東京)  
出席者  
関 修 一 郎 (厚生省)  
越 野 立 夫 (日医大)  
馬 場 一 雄 (日 大)  
松 村 忠 樹 (関西医大)  
植 村 恭 夫 (慶 大)  
小 宮 弘 毅 (神奈川こども医療センター)  
木 下 洋 (関西医大)  
井 村 総 一 (日 大)  
高 橋 滋 (日 大)  
村 田 直 (日 大)

各分担研究者より下記分担課題について本年度の研究成果が発表され、質疑応答がなされた。  
また事務的事項として本年度の研究報告書ならびに会計報告書作成について再確認がなされた。

研究報告

1. ハイリスク児の医療対策に関する研究およびハイリスク児の救命に関する研究  
(分担研究者 馬 場 一 雄)
2. ハイリスク児の intact survival に関する研究  
(分担研究者 松 村 忠 樹)
3. 未熟児網膜症の成因と予防に関する研究  
(分担研究者 植 村 恭 夫)
4. ハイリスク児の医療システムに関する研究  
(分担研究者 小 宮 弘 毅)

## ハイリスク母児管理班 分科会

### 「ハイリスク児の医療対策に関する研究およびハイリスク児の救命に関する研究」

#### 議 事 録

日 時 昭和58年2月17日  
場 所 ホテル国際観光(東京)  
出席者  
馬 場 一 雄 (日 大)  
多 田 裕 (都立築地産院)  
志 村 浩 二 (静岡こども病院)  
井 村 総 一 (日 大)  
高 橋 滋 (日 大)  
高 田 昌 亮 (日 大)  
村 田 直 (日 大)

昨年度に引続き、本年度も未熟児くる病の予防あるいは治療について、日大板橋病院、築地産院、静岡こども病院の3施設での調査成績をもとに臨床的検討を行った。各研究者より調査成績の報告があり、くる病の発生防止策ならびに投与基準の作成について討議した。また本年度の事務処理について再確認がなされた。

#### 研究報告

1. 未熟児くる病の予防に関する臨床的検討 (馬場一雄)
2. 出生体重1000g未満の超未熟児のくる病予防に関する研究 (多田 裕)
3. 超未熟児のくる病発生予防ならびに診断法 (志村浩二)

厚生省 ハイリスク母児管理班

昭和57年度総会及び評価委員会

議 事 録

日 時 昭和58年2月26日(土) Am10:00~Pm4:00

場 所 ホテルグランドパレス3階

出 席 者

厚生省母子衛生課	尾 崎	明
”	関	修 一 郎
主任研究者	室 岡	一
評 価 委 員	山 村	博 三
	小 川	次 郎
	森 山	豊
分科会長(幹事)	坂 元	正 一
	武 田	佳 彦
	馬 場	一 雄(代理)
	竹 村	喬
分担研究者(班員)	倉 智	敬 一(代理)
	千 村	哲 朗
	奥 山	和 男
	須 川	一 豊
	前 田	一 雄
	前 川	一 喜 平
	神 保	利 春 樹
	松 村	忠 夫
	植 村	恭 弘
研究協力者及び	小 宮	弘 毅 紀
協同研究者	桑 原	慶 一 夫
	井 村	総 嶺
	青 木	一 夫
	荒 木	勤 亘
	高 橋	直 美
	疋 田	美 直
	八 木	忍 彰
	田 中	彰 夫
	越 野	立

- 議 事
1. 主任研究者挨拶 ..... 室 岡 一
  2. 厚生省挨拶 ..... 尾 崎 明
  3. 研究発表



I 極小未熟児の発生予防と管理に関する研究	分科会長(司会)	坂元正一
① IUGRの診断基準と実態調査		倉智敬一(代理青木嶺夫)
② 胎児の成熟度の診断とRDS発生防止		坂元正一
③ 早期陣痛発来防止に関する研究		千村哲郎
④ 極小未熟児の哺育指針		奥山和男
II 周産期死亡の原因と対策に関する研究	分科会長(司会)	武田佳彦
① 統一カルテによる周産期統計		武田佳彦
② 周産期死亡発生防止のための指針作成		神保利春
③ 母児健康管理システムの研究(追跡データ)		須川豊
III 分娩周辺における児の安全管理に関する研究	分科会長(司会)	室岡一
① 胎児監視システムのあり方		室岡一
② 分娩管理の胎児予後改善効果確立に関する研究および最新の分娩管理技術に関する研究		前田一雄
③ 児側からみた産科施設改善のための問題点 — 分娩室内管理の正しいあり方 —		前川喜平
IV NICUの運用管理に関する研究	分科会長(司会)	馬場一雄
① ハイリスク児の医療対策に関する研究およびハイリスク児の救命に関する研究		馬場一雄
② ハイリスク児の intact survival に関する研究		松村忠樹
③ 未熟網膜症の成因と予防に関する研究		植村恭夫
④ ハイリスク児の医療システムに関する研究		小宮弘毅
V 妊産婦死亡予防のための具体的対策に関する研究	分科会長(司会)	竹村喬

4. 評価委員による研究の評価 山村博三, 森山豊, 小川次郎

5. 主任研究者挨拶 室岡一

上記スケジュールにより各分担研究者から昭和57年度研究報告と3年間のまとめを資料にもとづき発表され、活発な質疑応答があった。

#### 評価委員の評価

この研究班の会議に評価委員として出席できて感謝しているとともに、各研究者の先生方に敬意を表します。

研究発表は全てにコンセンサスが得られるものばかりではないが、ハイリスク妊娠の母児管理によって、intact survival を目指すという方向では一致している。

3年間の室岡班、その前の3年間の坂元班と続いた研究が産科側と小児科側との連携によって大いに発展したことを痛感し、その成果が地域医療に貢献してきている。今後はさらに厚生省の意向にそいながら一層の研究発展を望む次第である。